

SUFD Report 2021

令和3(2021)年度 仙台大学FD年次活動報告



本学では、教員を中心にFD活動を実施している。主な活動は、(1) 学内FD研修会の企画運営実施、(2) 授業改善アンケートの実施、(3) シラバス作成の支援、(4) FD活動の広報・周知である。

(1) 学内FD研修会の企画運営実施

本年度は、次の6つの研修会を実施した。

① 新任教員FDセミナー

4月2日に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

② 部活動FD研修会

5月25日に部活動担当教員を対象とし、セクハラ問題、マスコミ対応について仙台大学客員教授である中井憲治弁護士より実例を元に研修会を実施した。

③ 学修状況調査の概要報告研修会

本学では7月12日から10月20日にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況について、基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生にWebアンケートにて実施した。この調査結果については、10月26日に開催した教授会で報告を行った。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学修状況との関係が示された。

④ ハラスメントSDFD研修会

全教職員を対象に、対象者別に複数回に分けて、スポーツ界で起きうるハラスメントについて、

外部講師である田澤良行氏を招いて研修会を実施した。

⑤ ICT 機器活用による授業改善 FD 研修会

9月6日にICT教育推進委員会と共催で研修会を開催した。ICT教育事例紹介として、講義型、実習型に分けて2020年度の授業評価アンケートが高い先生に講師を依頼し、実際のオンライン授業での活用法などの説明を行い、ICT教育推進委員会からは、ICTツールの紹介を中心に、オンライン授業で起きている課題などについて説明を行った。

⑥ 授業づくりのためのFD研修会

本学では、学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は、「アフターコロナ時代のための教育改善～これからの大学に求められること／これからの大学がやるべきこと～」をテーマに掲げ、12月7日に研修会を開催した。Web上で教員と学生が集まり、教員と学生を交えたグループをつくり、ディスカッションを行った。

(2) 授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施している。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン授業が主だったことから、Webアンケートにより実施した。この結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

(3) シラバス作成の支援

シラバスは学生に対して授業内容を示すだけでなく、大学設置基準や認証評価等への対応も兼ねており、教学経営において重要なものであると考える。

シラバスを作成すること自体がFD活動の一環であり、教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバスとするために、本年度も教員に配布しているシラバス作成要領（「シラバス作成の手引き」）を加筆修正し、シラバス入力の大きな変更点については、別途、説明動画を作成し配信を行った。なお、シラバスは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

(4) FD 活動の広報・周知

① FD 広報冊子の作成

本学では、FD広報冊子（SUFD Report）を年に1度発行している。本年度発行するもので第8号となる。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

②学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。今年度については、2名の委員が「第23回基盤教育ワークショップ」にオンラインで参加をした。





2021 年度 新任教員のための FD セミナー

開催プログラム

日 時：令和3年4月2日（金）11:00～12:30

会 場：A棟2階 大会議室

持 ち 物：学生便覧、授業概要（どの学科でも良）、オリエンテーション資料、TIMETABLE（時間割）

時刻	内容		
11:00	開会挨拶		
11:05	教務について		
	① 授業について		
	② 履修登録と成績評価		
	③ 教室での機材の利用		
	④ 学生の出欠管理		
	⑤ 学生への連絡・告知		
	⑥ 休講		
	⑦ オフィスアワー		
	⑧ その他		
11:20	カリキュラムについて		
	① カリキュラムポリシー		
	② カリキュラム全体の編成		
	③ 担任制		
11:35	教養教育について		
	① 体育系大学の基礎教養		
	② 仙台大学の専門教養演習		
	③ 学習基礎教養演習		
11:50	FD 活動について		
	① FD 活動とは		
	② シラバス（授業概要）		
	③ 授業改善アンケート		
	④ FD 研修会		
12:00	フリートーク（質問・疑問など）		
	グループ	新任教員	FD 委員
	①	重巢吉美・賞雅さや子・川田尚弘・野口翔	林委員*・田口委員
	②	松本文弘・岩渕孝二・塚本拓也	佐藤周委員*・加畑委員
	③	中里寛・小西志津夫・真木瑛	福田委員*
	*コーディネーター役		
12:25	閉会挨拶		

報告 REPORT

部活動 FD 研修会

日 時：令和3年5月25日（火）17時00分～17時20分

講 師：中井 憲治（弁護士・朴沢学園理事および仙台大学客員教授）

開催方法：オンライン（Google ミート）

次 第：

1. 開式：（司会）南條副学長
2. 講演：（講師）中井憲治弁護士
3. 閉会：（御礼）高橋学長

1. 根強い女子差別を背景とするセクハラ問題

スポーツ教育の現場においてセクハラ問題が非常に難しいのは、師匠と弟子の関係があることである。師匠と弟子の関係は特殊な権力関係であり、師匠が絶対とされる閉鎖された状況にあること。これに加えてここで通用するのは頭の良し悪しではなく、筋力が強いかなどの競技特性があるかどうかに大きなウエイトが置かれている。そもそも自分が何のためにスポーツをやってきたのか。何のためにスポーツを指導しているのか。スポーツを通じて世のため人のために何の意味があるのかを共通認識することが非常に大事である。

2. セクハラの内容は広い

セクハラの中には犯罪行為が含まれている。ピラミット型でセクハラを例えるならば、上方には犯罪行為があり、下方にはセクハラか不明な内容がある。この中には金銭で解決できるものや謝って済むものも存在するし、犯罪行為として警察官や検察が入らなければならない内容もある。気を付けなければならないことは、犯罪行為が入っている案件に対して、法律分野では素人のスポーツ指導者が全てのセクハラと同様に対応してしまうことである。本来負うべきでない損害をまでも負うことにもなる可能性がある。そのため、犯罪行為に該当する案件をスポーツ教育の場で探知した場合は、自分たちで対応することが危険であることの認識が非常に重要である。できるだけ速やかに警察に通報すべきであり、それが大学や組織を守ることにつながる。なぜなら、個人が個人に行った犯罪行為を組織が隠したとみなされることは、組織が証拠を隠滅したのではないかという疑いにつながり、組織犯罪として組織全体のガバナンスがなくなっていくことで大きく報道され、2次被害を招くこととなり得る。犯罪行為に該当した場合は可及的速やかに通報し、警察など第三者に見てもらうことが非常に大事である。スポーツ指導者が扱うセクハラの内容としては、教育的配慮としてゆとりを持って扱えるものについてのみ対応すべきである。

また、セクハラは密室犯罪が多いことであるので、素人が聞き取りを行っても事実認定が困難である。また、被害者や加害者をこちらで間違った方向に誘導しかねない。そのため、事案を探知した場合、自分や部内のみで抱えずに、執行部に相談しながら進めていただきたい。

3. マスコミへの対応について

自分たちの報道が出ると、多くの方はマスコミを敵対視することは間違いである。そのような行動はたいへん見苦しい。皆さんは教育者なので、学生たちが皆さんのその態度をみていることを前提に行動をしていただきたい。

また、マスコミは決して敵ではない。社会のために優良な情報を提起するとともに、当事者が気づかない点を示してくれる感謝すべき存在である。粗末に対応せず、しっかりとした対応を心がけていただきたい。

以上

報告 REPORT**令和3年度 ハラスメント SDFD 研修会
「高等教育現場に起こりうるハラスメントについて理解をする」**

主 催：FD 委員会
共 催：ハラスメント防止委員会
開催方法：Zoom オンライン

内 容：
ハラスメントの理解
ハラスメント行動の改善点
組織で取り組むハラスメント対策
現状分析（事前アンケート結果による）

日時・対象者：
8/26（木）10:00-11:30 *管理職教員・事務職員向け
8/26（木）15:30-17:00 *教員向け
8/27（金）10:00-11:30 *管理職教員・事務職員向け
9/1（水）10:00-11:30 *教員向け
9/1（水）15:30-17:00 *部活動指導をしている教職員向け
9/2（木）15:30-17:00 *管理職教員・事務職員向け

研修会のテーマと内容、講師：
テーマ「高等教育現場に起こりうるハラスメントについて理解をする」

内 容：
ハラスメントの理解
ハラスメント行動の改善点
組織で取り組むハラスメント対策
現状分析（事前アンケート結果による）

講 師：田澤良行氏（ai 株式会社）





令和3年度 ICT 機器活用による授業改善 FD 研修会について

主 催：教育改善企画運営委員会
 共 催：ICT 教育推進委員会
 日 時：令和3年9月6日（月）教授会終了後
 対 象 者：仙台大学教員
 開催方法：Meet オンライン

内 容：

- 第一部：ICT 教育事例紹介（40分：各20分×2名）
 - 講義型（講師は2020年度の授業評価アンケートが高い先生）笠原岳人先生
 - 実習型（講師は2020年度の授業評価アンケートが高い先生）
- 第二部：ICT ツールの紹介（20分）
 - 講師：ICT 教育推進委員

「ICT を利用した授業の改善に向けた FD 研修会」林 直樹

2021/09/06
 仙台大学

ICTを利用した 授業の改善に向けたFD研修会 【実技授業編】

教育改善企画運営委員会
 林 直樹

実技授業（対面）でのICT利用(1)

【オンデマンド映像】Google Classroom
 ※**反転学習教材**として利用

！運動動作の提示
 ！ルール説明

サービスは、コート裏から11mまでの高さよりも低い位置で行います（2019年改訂）
 シングルス、ダブルスとも対角線の前後部分にサービスを入れます。
 サービスのやりかた

2019年 サービスに関するルール改正

実技授業におけるICTの活用

！Information and Communication Technology
 ！IT技術を駆使して人々の暮らし（コミュニケーション）を豊かにする
 ！LMS（Learning Management System）の活用
 →Google Classroomなど
 ！オンライン授業、オンデマンド授業
 ！メールやSNSの利用

実技授業（対面）でのICT利用(1)

【オンデマンド映像】Google Classroom
 ※**反転学習教材**として利用

！運動動作の提示
 ！ルール説明
 ！フォーメーション説明

サイド・バイ・サイド（守備・オールラウンド型）
 トップ・アンド・バック（攻撃型）

実技授業（対面）でのICT利用(1)

【オンデマンド映像】Google Classroom
 ※**反転学習教材**として利用

！運動動作の提示

リストスタンド

実技授業（対面）でのICT利用(1)

【オンデマンド映像】Google Classroom
 ※**反転学習教材**として利用

！運動動作の提示
 ！ルール説明
 ！フォーメーション説明
 ！歴史説明

History of Badminton
 一人遊び 打ち続ける Play alone
 二人遊び 打ち続ける Play together
 ゲーム・ルール 打ち勝つ Beat opponent
 1860年 バドミントン・バトルドアー販売

動画の工夫(1)

!ズームアップ
!スロー再生


50%スロー



動画の工夫(4)

!得意なこと（絵を描く）を活用

「俺は、バドミントン王になる！」



動画の工夫(1)

!ズームアップ
!スロー再生
!二画面（二方向撮影）

iMovie（動画編集ソフト）
を使用



動画の工夫(4)

!得意なこと（絵を描く）を活用

!バドミントンはラリー回数を
カウントする。

!「何回？」と問うた時に・・・
!35億



動画の工夫(2)

!顔を出す
!Zoomにて撮影
（背景に教材を設定）



動画の工夫(4)

!得意なこと（絵を描く）を活用

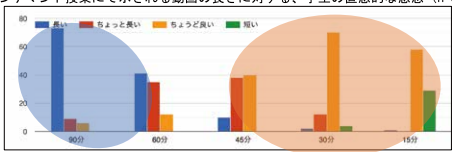
!午後の授業も、全集中!
!羽根打ちの呼吸!



動画の工夫(3)

!時間15～30分を1つの単位と考えて構成する。

オンデマンド授業にて示される動画の長さに対する、学生の直感的な感想（n=89）



DX (Digital Transformation) へ


!反転学習として利用することにより、対面時の説明時間を短縮することができた。

!復習する習慣についてもアプローチできた。

!授業時間外における学修時間の確保により、大学設置基準にある「1単位=45時間に相当する学修時間」ということに対して、学生の理解を得られた。

動画の工夫(3)

!時間15～30分を1つの単位と考えて構成する。
!15分くらいを目安でブレイクできるような内容を挟む。



ご清聴ありがとうございました。

「同時双方向型の授業で心がけていること」 笠原岳人

令和3年度
授業改善 FD研修会

「同時双方向型の授業で心がけていること」

笠原 岳人

授業中の工夫 (前回の振り返り②)

- ・父が入院した日、直ぐに退院までの説明がありました。この内容がクリティカルパスということが今日の授業でつながりました。
- ・入院している祖母が、介護申請を勧められました。リハの日数制限があるためということが理解できました。
- ・祖父母は今元気ですが、病院でリハビリができる期間が決まっていることを伝えたいと思います。

対象科目

- ・科目 リハビリテーション論
- ・対象 健康福祉学科 1年
- ・履修 必修 (100名前後)
- ・形態 座学 (F棟303教室 ⇒ 同時双方向型の授業)
- ・資料 投稿した資料を各自で印刷
- ・履修 同時双方向型授業の工夫 (授業前 ⇒ 授業中 ⇒ 授業後)

授業中の工夫 (授業のキーワード)

テーマ **脳卒中とリハビリテーション**

1. 病気の特徴
 - ・ **脳梗塞** (脳血管の詰まり) ・ **脳出血** (脳血管の破綻)
 - ・ **後遺症** (手足が動かない・飲み込めない・話せない・見えない...)
2. リハビリテーション
 - ・ **運動訓練** (棒体操・嚥下体操・書字訓練)
3. 脳卒中の予防
 - ・ **生活習慣** (血圧管理・肥満の解消・水分補給・禁煙...)

授業の展開

1. 授業前 (5分)
2. 授業中
 - 1) 前回の復習 (10分)
 - 2) 今日の授業 (70分)
 - ・ キーワード ⇒ 説明 (資料) + 実技 (Webカメラ)
 - ・ 練習問題
3. 授業後：振り返り (チャットへの書き込み) (5分)

授業の展開

1. 授業前 (5分)
2. 授業中
 - 1) 前回の復習 (10分)
 - 2) 今日の授業 (70分)
 - ・ キーワード ⇒ 説明 (資料) + 実技 (Webカメラ)
 - ・ 練習問題
3. **授業後**：振り返り (チャットへの書き込み) (5分)

授業前の工夫

「リハビリテーション論」受講の皆さん

授業は **12時40分** から行います。

今日のテーマは **脳卒中のリハビリ** です。

講義資料 と **指定物** を用意してお待ちください。

授業後の工夫 (チャットを活用した授業の振り返り)

- ・脳卒中は高齢者の病気というイメージでしたが、授業を通して、中年層のリスクも高いことが理解できました。今日学んだことを父母にも伝えたいと思います。
- ・今日の授業は、昨年、脳卒中で倒れた祖父と一緒に参加しました。授業で教わった「嚥下体操」と「棒体操」を一緒に行ってみます。
- ・私は養護教諭を目指しています。将来、病気にならない生活習慣の大切さを指導できる教員を目指したいです。

授業の展開

1. 授業前 (5分)
2. **授業中**
 - 1) 前回の復習 (10分)
 - 2) 今日の授業 (70分)
 - ・ キーワード ⇒ 説明 (資料) + 実技 (Webカメラ)
 - ・ 練習問題
3. 授業後：振り返り (チャットへの書き込み) (5分)

同時双方向型の授業での心がけ

- ・授業の始まりから終わりまで、学生を孤独にさせない
- ・学生一人ひとりの集中力を持続させる授業の展開
- ・チャットの書き込みを活用した、意見や感想の共有化
- ・「みんなが参加している」という
同時双方向型の授業内の雰囲気づくり

授業中の工夫 (前回の振り返り①)

テーマ **リハビリテーションの展開**

- ・制度：「医療保険 (病院)」と「介護保険 (在宅・施設)」
 - ： 国別における医療費の自己負担の割合
 - 例) 日本・アメリカ・デンマーク
- ・履修：「急性期・回復期」から「維持期」へ
- ・現状：「日数制限」と「クリティカルパス」の導入
- ・課題：「西高東低」とは？ 「5大疾病」とは？

「ICT 機器活用による授業改善FD研修会(第2部) - 昨年度末のアンケート結果を踏まえて」 ICT 教育委員会


ICT機器活用による授業改善FD研修会(第2部)
- 昨年度末のアンケート結果を踏まえて -

ICT教育推進委員会

データダイエット

データ通信容量が極力小さくなるように工夫する取組み。

- ・ 双方向のやり取りを行う
- ・ 教員からの一方の方向の情報伝達
- ・ 学生が問題を解く主体的な学び



国立情報学研究所 (2020) <https://www.nii.ac.jp/event/other/bsca/11p2.html>

調査概要


対象者：本学の全学部生

期間：2021年1月26日～2月28日

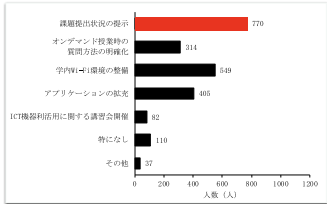
方法：Google Formsを用いた無記名のアンケート調査

回答者：1,118名

回答率：46.1%



改善すべき点や必要だと思うこと




改善すべき点	人数 (人)
課題提出状況の表示	770
オンデマンド授業時の質問方法の明確化	314
学習Wi-Fi環境の整備	319
アプリケーションの公表	405
ICT機器利活用に関する講習会開催	82
物になし	119
その他	37

提出したにも関わらず、「提出済み」と表示されない場合がある

学修環境と遠隔授業の受講状況

	人	(%)
無制限のインターネット環境がある学生	1,010	(87.3)
遠隔授業で主に利用した端末		
スマートフォン	124	(11.1)
タブレット (個人所有)	69	(6.2)
貸与iPad	798	(71.5)
PC	125	(11.2)
遠隔授業の主な受講場所		
自宅または寮	1,093	(97.9)
友人の家	11	(1.0)
大学構内	10	(0.9)
その他	2	(0.2)


改善すべき点や必要だと思うこと



教員がFormsの他にもファイルを添付している場合は、学生自身で「完了としてマーク」をタップし「提出済み」にする

Google support (online) <https://support.google.com/edu/classroom/answer/6020285?hl=ja&ref=topic-9050121>

改善すべき点や必要だと思うこと



添付ファイルの種類に応じて、学生自身で「提出」をタップし「提出済み」にする

Google support (online) <https://support.google.com/edu/classroom/answer/6020285?hl=ja&ref=topic-9050121>

意見や要望



To Do 「割り当て済み」画面 To Do 「完了」画面

意見や要望

頻出語上位10語

	抽出語	出現回数
1	授業	117
2	アプリ	58
3	課題	47
4	iPad	44
5	思う	43
6	オンライン	41
6	提出	41
8	対面	39
9	期限	31
10	入れる	25

共有ネットワーク (一部分)

意見や要望

課題や質問を作成する時に、「期限」を設定してから投稿する

意見や要望

記述回答 (一部)

	記述回答 (一部)
授業	実技教科は仕方ないが 座学はオンライン で問題ないはず。学生に外出を制限するのであれば オンライン にできるものは全てそうすべき。コロナ感染が怖いので 実技以外はオンライン を継続して感染リスクを抑えて欲しい。 実技以外の科目を 初めからオンライン にした方が戸惑いなく新しい学習ができると思います。
課題	課題が多い 出席確認のための 課題が多い どの課題も 期限を設定してToDoで見れるように して下さるととてもわかりやすいです。 提出期限のある課題は 全てToDoに行くように してほしい。機能を最大限利用すべき。

後期授業開始にあたって

オンライン授業とは、インターネットを介して行う教育方法

意見や要望

- 課題 (出欠確認が目的)
 - ・リアルタイム型であれば「出欠レポート」を活用
 - ・授業時間内に取組むことができるように工夫 など
- ToDoでの課題把握
 - ・ToDoに反映されるように、**期限を設定し投稿**する

後期授業開始にあたって

	オンライン授業の主な方法
リアルタイム型	ClassroomやMeetを活用して、タイムテーブルに記載されている曜日・時間に 同時双方向 で学修する授業形態。
オンデマンド型	Classroomに配信された 講義動画や音声付き資料 を基に学修する授業形態。学修の理解度は、課題やテスト等で確認を行う。

令和3年度オリエンテーション資料P84

後期授業開始にあたって

- リアルタイム型の場合
- オンデマンド型の場合

まとめ

1. 無制限のインターネット環境がある学生は多いが、データダイエットという取組みもある
2. 課題および出欠確認方法の最適化と効率化を検討する必要性
3. Classroomで課題や質問を作成する時は、**期限を設定**する
4. オンライン授業では、**リアルタイム・オンデマンド**を伝える



令和3年度 学修調査の概要報告

【目的】

・本調査の目的は、学生に対する支援と指導のため、日常の学生の学修状況についての基礎的な資料を得ることである。

【方法】

1. 調査対象

・体育学部に所属する全学生を対象として調査を実施した。

2. 調査内容

・「学生の学修状況に関する調査」というアンケートを Google フォームにて作成し、調査に使用した。

・質問内容は以下の通りである。：

- ①基礎的情報：性別、学年、学科
- ②授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
- ③授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
- ④大学での学習で最も力を入れていること
- ⑤高校3年時での授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
- ⑥高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
- ⑦卒業後の進路として最も希望していること

3. 調査の手続き

・調査期間は令和3年7月12日（月）～10月20日（木）である。

・教育企画室アドレスから全学生にメールにてアンケートフォームのURLを配布、期日までの回答を依頼した。

4. 統計解析

・得られた結果は各学年に占める割合（%）で示した。

・各学年、学科および性別と質問項目をクロス集計し、 χ^2 検定を行った。統計的有意確率は5%未満とした。

【結果】

1. 回答率について

・学科学年別の回答者数と回答率を表1と表2に示した。全体での回答率は50.7%となった。

学科	1年	2年	3年	4年	全体
体育	291人	168人	177人	112人	748人
健福	44人	48人	44人	30人	166人
運栄	66人	35人	30人	31人	162人
ス情	32人	32人	17人	17人	98人
現武	30人	25人	26人	16人	97人
子教	23人	12人	27人	8人	70人
全体	486人	320人	321人	214人	1341人

表1 学科学年別回答者数

学科	1年	2年	3年	4年	全体
体育	75.4%	48.8%	51.3%	32.2%	52.6%
健福	57.9%	44.0%	41.5%	28.3%	41.8%
運栄	85.7%	44.3%	37.0%	34.4%	49.5%
ス情	86.5%	65.3%	41.5%	42.5%	58.7%
現武	71.4%	49.0%	52.0%	42.1%	53.6%
子教	79.3%	33.3%	67.5%	17.4%	46.4%
全体	75.1%	47.9%	48.4%	32.0%	50.7%

表2 学科学年別回答率（休学者を含む）

2. 概要まとめ

- ・ 回答率が約 50% 程度であり、データの解釈には注意が必要である。回答した学生は、1 年生が多く、学年が上がるにつれて回答率が低下している。このことから、比較的に 1 年生のデータは信頼できそうであることや、2 年生以上は Web アンケートに抵抗が少なく、協力的な学生である可能性が高いことを考慮する必要がある。
- ・ 全体として昨年度のコロナ禍の影響に比べると一昨年度の状況に戻りつつあると考えられる。四年生で学習時間が相対的に長くなっているのは、教員採用試験など就職対策のための学習の必要性と関連があると考えられる。四年生を除く学年では、一昨年と比べると自主学習時間が長いことから、今年度もオンライン授業による課題によって学習時間が延長したと考えられる。また、オンデマンド配信による繰り返し動画等を視聴できる環境に変わったことによる影響も考えられる。
- ・ 1～3 年生において、1 時間未満の運動時間である学生の割合が昨年度に比べ増加した。その一方で、学習時間は昨年度に比べて増加傾向であった。新型コロナやオンライン授業による課題の影響の可能性が考えられる。
- ・ 1 年次には資格や免許の取得を目標とする学生が 60% 弱と最も多いが、この割合は学年の進行とともに低くなる。それに対して「教養を身につける」ことを重視する学生が増加している。これは昨年度と変わらず、本学学生の特徴としてとらえても良いと思われる。
- ・ 進路の希望として 1 年次では教員希望が最も多いが、学年が進むにつれてその割合は減少する。それに対して一般企業を目指す学生が増加している。一方、「公務員」、「スポーツ関連の職業」を目指す学生はいずれの学年においてもある程度の割合見られる。これも昨年度と変わらず、本学学生の特徴としてとらえても良いと思われる。

以上





令和3年度 FD研修会

「アフターコロナ時代のための教育改善

～これからの大学に求められること / これからの大学がやるべきこと～」

日 時：令和3年12月7日（火）14：30～15：50

会 場：オンライン Meet（<https://meet.google.com/eba-uyko-pjr>）

テ ー マ：「アフターコロナ時代のための教育改善

～これからの大学に求められること / これからの大学がやるべきこと～」

出席者：＜FD委員＞平良委員長、針生委員、高橋委員、林委員、佐藤周委員、金委員、加畑委員、伊勢委員、渡辺教育企画室長、

＜新任教員＞松本先生、川田先生、岩渕先生、中里先生、小西先生

＜協力学生＞鳴海杏菜さん（体育3年）、鈴木結貴さん（同1年）、千葉史也さん（福祉3年）、佐藤亮太郎さん（同4年）、箱崎くるみさん（栄養2年）、我妻祐依さん（同4年）、本松佑里香さん（情報3年）、藤田卓実さん（同2年）、佐藤七海さん（武道2年）、今野衣久美さん（同2年）、太田蒼衣さん（同4年）加藤秀麻さん（子ども2年）、小林杏奈さん（同2年）

内 容：

- (1) 開会式・挨拶
- (2) グループ討議
 - ＜討議の観点＞
 - ①仙台大学の教育の現状（課題・評価点）
 - ②学生から見て、これからの（仙台）大学教育に求めること
（今できていることは何か、さらに良くするために何が必要か）
 - ③教員から見て、これからの（仙台）大学教育がやるべきこと、努力すべきこと、あるべき姿
（今できていることは何か、さらに良くするために何が必要か）
- (3) 全体会・各グループの報告
- (4) まとめ・閉会

参加者、およびディスカッションのグループ

＜討議＞＊グループ討議の司会はFD委員が担当・・・MeetA：林、金、佐藤周 MeetB：平良、田口、高橋

グループ	教 員	体 育	健康福祉	運動栄養	スポ情	現代武道	子ども
Meet A (林、金、佐藤周)	岩渕孝二 中里 寛	鳴海杏菜	千葉史也	箱崎くるみ	本松佑里香	佐藤七海 今野衣久美	加藤秀麻
Meet B (平良、田口、高橋)	松本文弘 小西志津夫 川田尚弘	鈴木結貴	佐藤亮太郎	我妻祐依	藤田卓実	太田 蒼衣	小林杏奈

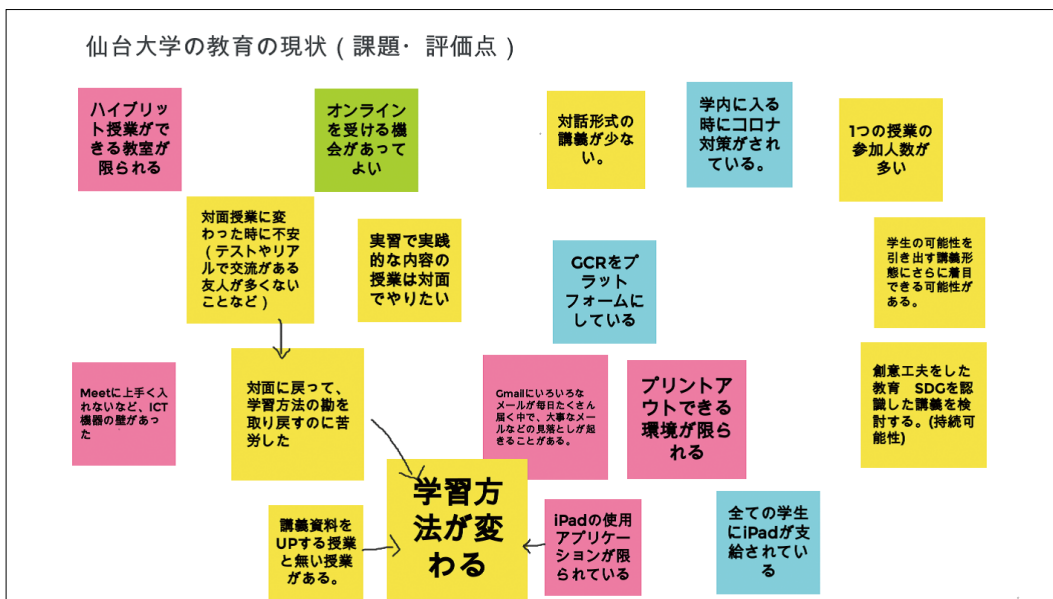
グループ討議のまとめ (学生・教員の意見)
 < Aグループ >

仙台大学の教育の現状 (課題・評価点)

学生から見て大学教育に求めること
 (今できていることはなにか、さらに良くするためには何が必要か)
 オンラインと対面の融合 (2年目の今年度、どんなスタイルが確立されましたか?)

教員から見てこれから大学がやるべきこと
 (今できていることは何か、さらに良くしていくためには何が必要か?)
 オンラインと対面の融合 (2年目の今年度、どんなスタイルが確立されましたか?)

< B グループ >



学生から見て大学教育に求めること
(今できていることはなにか、さらに良くするためには何が必要か)

オンラインと対面の融合 (2年目の今年度、どんなスタイルが確立されましたか?)

資料をアップして、見返せるようにする

実技の授業は対面授業で行って欲しい

電車通学のため対面授業を増やす事は怖い

実技はしっかり対面で行った方がいいと思う。動画などの説明だけでは身に付かない。

iPadでの授業の場合、使い方などをもっと教えて欲しい。

教員から見てこれから大学がやるべきこと
(今できていることは何か、さらに良くしていくためには何が必要か?)

オンラインと対面の融合 (2年目の今年度、どんなスタイルが確立されましたか?)

ハイブリット型授業ができる環境を整える

将来、ICT機器を活用できる人材の育成のために必要な科目を

オンラインと対面のメリットデメリットを把握する

ICT機器を活用できる教員の養成

対話できるような授業の工夫

iPadの経費負担大

WiFi環境が未整備

対面でも資料はクラスルームに掲載

対面でもフォームの活用

資料参照とノート活用の指示の明確化

< C グループ >

学生から見て大学教育に求めること
 (今できていることはなにか、さらに良くするためには何が必要か)

オンラインと対面の融合 (2年目の今年度、どんなスタイルが確立されましたか?)

授業時間内に課題を終わらせることができるよう余裕をもって進めていきたい (藤田)

コミュニケーション能力を向上させる事ができるカリキュラムや場を設けてほしい。

教員から見てこれから大学がやるべきこと
 (今できていることは何か、さらに良くしていくためには何が必要か?)

オンラインと対面の融合 (2年目の今年度、どんなスタイルが確立されましたか?)

オンライン授業の質の向上・工夫 (教材等) (川田)

ハイブリッド方式等柔軟な対応 (川田)

双方向からの取り組み (川田)

メリハリのあるICTの活用：課題・VDT症候群 (川田)

無線インターネット環境の充実【金一】

双方向性の高い授業 (田口)

iPadを使わずにスマホを使う学生が多くみられ、随時活用動誘取り組み

SUFD Report2021 令和3年度仙台大学FD年次活動報告

編集：仙台大学 教育企画部 教育改善企画運営委員会

委員長：平良拓也

委員：針生 弘 高橋 亮 林 直樹 田口 直樹 佐藤 周平 金 一坤 加畑 碧 賞雅さや子

発行：仙台大学

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2番18号 電話：0224-55-1121 (代表)

制作・DTP：株式会社仙台紙工印刷

発行年月日：2022年3月31日